

琉球大学学術リポジトリ

グローバル・プログラム津梁 令和2-3年度プロジェクト報告
～多様性・協働性を核とした国際通用性のある体系的な学士教育の確立に向けて～

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2022-05-19 キーワード (Ja): グローバル人材育成, 副専攻, グローバルコモンズ, ルーブリック キーワード (En): FD 作成者: 當間, 千夏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002017941

グローバル・プログラム津梁 令和2-3年度プロジェクト報告 ～多様性・協働性を核とした国際通用性のある体系的な学士教育の確立に向けて～

當間千夏

グローバル教育支援機構開発室

要 旨

この事業報告では、第三期中期計画戦略1 グローバル人材育成加速化事業「グローバル・プログラム津梁」の令和2年度、令和3年度前期の取組についてその概要を紹介し、令和3年度が最終年度となる本プロジェクトを今後の本学におけるグローバル人材育成事業につなげるための取組の整理を試みる。

キーワード

グローバル人材育成、副専攻、グローバルコモンズ、ルーブリック、FD

1 プログラム概要とこれまでの流れ

グローバル・プログラム津梁は本学においてこれまで実施されてきた留学や語学、国際交流等の取組を一元化することにより可視化・整理し、グローバル人材育成を体系的に提供すること、さらに「多様性を受容し協働する」グローバル人材を育成するプログラム（副専攻）を提供することを目的として平成29年より5年間実施されてきた。

令和2年度と令和3年度の新型コロナウイルス感染拡大状況下においては、留学生と日本人学生の交流や交換留学など従来の対面式国際交流事業の実施が難しくなり、本事業においても厳しい状況となったが、GCCや副専攻、ワークショップやセミナー、副専攻運営においてzoomやSNS等を活用し、活動をオンラインに切り替えることでプロジェクトの新たな可能性を開くことが出来た。また、インターネットの活用により情報集約及び提供（→2-1. グローバル事業集約パンフレット）を進めることができた。

2 令和2年度実施取組について

2.1 国際教育に関する取組の集中、可視化による教育の体系的な提供

グローバル・コモンズ津梁

グローバル・コモンズ津梁は、学内の国際的な取組（交流イベントや発表会、講義、GCC活動など）を実施するための「場」としてそれらの取組を集約する役割を持っていた。しかし、令和2年の新型コロナウイルス感染拡大により、附属図書館でのグループ学習が禁止となり、グローバル・コモンズ津梁における対面活動も中止を余儀なくされている。現在は、同スペースでのイベントに代わり、zoom等を活用してオンラインにてイベントや説明会等を実施している。

同スペースは、新型コロナウイルス感染拡大に伴いでコモンズとしての機能の停止を余儀なくされているものの、コロナ禍のオンライン授業スペース不足に対応する形で一人での利用に限定したオンライン授業参加用スペース（飛沫防止用パーテーションの設置、机の距離の確保、消毒用アルコールの設置等の対策済）を一時的に設置し、学生に活用して頂いている。感染拡大状況が落ち着き次第、コモンズとしてのスペース利用を再開する予定となっている。

グローバル・コモンズ コンシェルジュ（以下GCC）

本学学生による、学生のための語学・留学サポート組織であるGCCは、平成30年度に活動を開

始してから令和元年度まで附属図書館のグローバル・コモンズ津梁にてイベント開催、カウンセリング等の活動を行ってきたが、令和2年度の新型コロナウイルス感染拡大から対面での活動停止を余儀なくされた。その代替手段としてオンラインによる活動を令和2年4月より開始し、オンラインによるワークショップや語学会話グループ（英語、日本語、フランス語、中国語）の運営、語学留学情報の発信等を継続してきた。

オンラインでの開始当初は、対面によって行われていたメンバー同士のコミュニケーションの減少やモチベーションの低下、参加者の減少等が問題となったが、メンバー学生の積極的な提案や工夫によって少しずつ状況が改善され始めている。例えば、学生による提案でビジネスチャットツールのSlackを導入し、オンライン上で互いの活動状況を共有することで、メンバー間での連携をしやすい状況が作られた。また、オンラインを活用した新たな取り組み（中国の学生と交流しながら中国語の会話練習をする中国語会話練習グループや、朝早くに活動を行う朝活英語等）が学生より提案、実施されるなど、状況を生かした活動が実施されている。

令和2年度の実施項目と参加人数は以下の通り。

取り組み内容	実施回数	参加人数（のべ）
英会話練習グループ	41	237
日本語会話練習グループ	10	69
フランス語会話練習グループ	4	11
TOEIC学習グループ	10	27
各種ワークショップ （交換留学、ワーホリ、英語等）	19	69
カウンセリング	3	3
合計	87	416

表1 令和2年度GCCオンライン取組実施回数及び参加者数

グローバル・モジュール（企業調査）

本事業では、学生が入学から在学中、就職を通して一貫した語学指標を使用し、自身の現状を確認しながら目指すキャリアに合わせて体系的に学びを進めることを目的として、グローバル・モジュールに①GTECの得点（1年次時点にほとんどの学生が受験）、②共通教育外国語講義の到達目標レベル、③県内外企業の求める英語力の3つの統合を進めてきた。既に①と②は終了しており、令和元年からは③に取り組んでいる。

③については令和元年度に一度企業調査を実施したが、更に多くのサンプルを確保するため、令和2年度も追加で企業調査を実施した。令和元年度は沖縄県経済同友会の協力を得て、沖縄県の企業を中心に調査を実施したが、令和2年度は本学卒業生が一定数以上（過去5年間に2人以上）就職している県内外の企業を対象として調査を実施した。その結果、県内外の企業より55件の回答を頂くことが出来た。令和2年度の企業調査では企業の求める語学力に加え、企業の求める英語以外の能力としてグローバル・コンピテンシー項目を追加し調査を実施した。現在は調査結果のグローバル・モジュールへの配置と、調査結果におけるグローバル・コンピテンシーと語学力の関連について分析を進めている。

グローバル事業集約パンフレットの作成

令和元年度に引き続き、令和2年度もグローバル事業集約パンフレットを作成した。令和2年

度はより情報の集約、整理に力を入れ、各事業への入口となる（=QRコードからオンラインで各取組のHPに直接アクセスすることのできる）パンフレットの作成に努めた。令和2年度は、学内留学情報、国際教育情報、各学部取組、課外活動情報に加え、留学に関わる各奨学金情報を掲載した。また、パンフレットで紹介される各取組で養成される能力（①語学レベル②グローバルコンピテンシー③SDGs）を整理した一覧表を追加した。これらは今後、グローバル・モジュール、グローバル・ルーブリックと併せて整理し、本学学生に向けて提供する予定。

同パンフレットは、本学の国際取組の情報冊子として、本学新入学生を中心に、その他本学学生や高校生に向けて配布されている。パンフレットの電子版は以下QRコードからダウンロードが可能となっている。



図1 グローバル事業集約パンフレット（一部抜粋）



図2 グローバル事業集約パンフレット アクセス用QRコード

オープンキャンパス留学フェアの開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面でのオープンキャンパスは実施されなかったため、本学HPのオープンキャンパス特設サイトにグローバル事業集約パンフレットを掲載してもらうことで、留学及び国際取組に関する情報を提供した。令和3年度は、7月10日（土）に開催されたオンラインオープンキャンパスにてグローバル津梁プログラム（副専攻）の説明会（90分を3回）と、GCCの英会話グループの体験セッション（30分）を実施し、副専攻2名、英会話グループ3名の参加があった。今回は広報段階で学部紹介等に埋もれてしまい、参加者に取組を見つけていただくことが難しい印象を受けたので、来年度以降オンラインでのオープンキャンパスに参加させていただくことがあれば、そこに気を付けて事前に広報をすることが望ましいと考えられる。

留学・ワーキングホリデーセミナーの実施

新型コロナ感染拡大状況下において、留学の見通しが立たない、情報が得られずに学生の留学に対するモチベーションが下がることへの対応策の一つとして、留学・ワーキングホリデーに関する情報提供のためのセミナーを開催した。同セミナーでは、日本ワーキングホリデー協会による講師及びワーキングホリデー経験者の方々を招き、各国の国境の状況やオンライン留学の可能性、感染拡大収束後を見据えた留学情報について講話を令和2年度に1回（参加人数5人）、令和3年度の前期に2回（初級編：参加者13名、中級編：参加者5名）実施した。参加者は当初新型コロナウイルスによる留学への影響への不安、何から始めたらいいかわからない等の悩みを抱えていたことから、参加後のアンケートでは「情報を知ることができてよかった」、「実際に留学に行った方の話が聞けて良かった」、「意欲が湧いた」等の感想が多く見られた。各回の参加人数はそれほど多くはなかったが、参加した学生の方々が抱えている不安を解消する、次につながるきっかけとなっていたことがわかった。同セミナーは令和3年度後期にも継続して実施する予定。

2-2. 学際・国際協働プログラム構築・実施に関する取組

グローバル津梁プログラム（副専攻）

令和元年より開始されたグローバル津梁プログラムでは、語学力（グローバル・モジュール）に加えOECD Education2030のコンピテンシー（新たな価値を生み出す力、対立を調整する力、責任をとる力）、SDGsの観点を組み込んだグローバル人材育成のための評価指標グローバル・ルーブリックを開発し、令和2年度よりその運用を開始した。本ルーブリックは知識から実践への連続的段階性を持った評価指標となっており、その各レベル・項目別に副専攻の各授業を位置づけている。

また、SDGs関連科目（R2年度：グローバルSDGs概論、R3年度：ヒューマニティ系SDGs演習、マネジメント系SDGs演習、ライフサイエンス系SDGs演習、エンジニアリング系SDGs演習）を開設し、SDGsを必修科目、選択必修科目として位置づけた新カリキュラムに移行している。新カリキュラムは、令和3年度入学学生より適用される。

基幹科目のグローバル実践演習Ⅰ～Ⅳでは、令和2年度、3年度共にオンラインの英語模擬国連（Online MUN）に受講生を派遣し、近畿大学学生をはじめとした日本国内外の学生と協働で模擬国連を実施した。本プログラムは令和3年度（令和4年3月）に第一期生を輩出予定となる。

3 英語で授業を行うためのFD実施

令和2年度より、コロナ禍で本事業による直接的な学生へのグローバル人材育成支援が制限されたことを受け、本事業の一環として、教員に向けたFDの提供を開始した。

令和2年度の具体的な取組としては、株式会社アルクに講師派遣を依頼し、「英語で効果的に授業を行うためのFD研修（初級編）」「英語で効果的に授業を行うためのFD研修（上級編）」の2つのFDを実施した。本取組は、本学で英語で講義を行うことのハードルを下げる、また既に英語で講義を実施している先生方のサポートを目的としている。各FDとも定員25名に対し定員数以上の応募があり、最終的に各21名の参加があった。

令和3年度は、グローバル津梁プログラムにて開発したグローバル・ルーブリック（プレゼンテーション、コンピテンシー、SDGs）の学内普及、改善を目的としたFDを実施し、6回の実施に対してのべ80人の先生方の参加があった。今後、海外に発信するオンライン授業FD、BEVIに関するFD等を実施予定としている。

4 最終年度（令和3年度）において

令和3年度はグローバル津梁プログラムの最終年度となる。令和3年度まで約5年間事業を実施してきた中で、グローバル・モジュールへの国際事業の集約や企業調査など既に完了した取組がある一方で、モジュールの運用やGCC、副専攻運営が開始され、今後さらなる継続や展開が必要な取組もある。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により状況が大きく変化した国

際教育では、今後オンラインと対面の特性を踏まえた住み分けと、適切な組み合わせによる取組を推進していくことに加え、集約された情報をオンラインで一元的に提供できるプラットフォームが必要である等の課題もある。本事業により積み上げた実績を第四期中期計画や副専攻や世界展開力事業、その他の事業に引き継ぎ、さらに発展させていくために、きちんとバトンを渡せるよう、令和3年度は5年間の事業報告書の作成やこれまでの事業の継続、世界展開力事業との連携、次の事業との接続を図っていく。